

2. 事業の概要と成果	
(1) 上位目標の達成度	上位目標:パレスチナにおける初等教育の質的向上、児童の基本的な学力向上。 公立学校5校とその教員および各学校長を対象に研修を実施し、参加型学習を中心とした指導方法を紹介した。参加者は習得した技術を定着することができ、人材育成と体制強化から学校教育の質向上を進めることができた。また対象校には必要な資機材を提供し活用を始めたため、学習環境の改善も一定進んだ。 補習授業を通して、児童の学習への関心と意欲が著しく改善し、補習授業の平均出席率は97.0%（学校99.1%、児童館90.3%）という高いものになった。また、昨年度末と事業終了時にあたる今年度末の学年末テストの成績を比較すると、得点率は5校平均で約12%向上した。成績に関してはまだ十分な分析ができていないが、上位目標の基本的な学力向上に一定の寄与をしたといえる。
(2) 事業内容	(ア) 補習授業の実施 - 対象：公立小学校5校の児童300人、児童館2館の児童100人、計400人。 - 二年事業で継続したフォローアップのため、一年次では4年生と5年生の児童を対象とした。 (イ)の研修を受けた学校教員20名と児童館の教育指導員6名が補習授業を担当。 - アラビア語、英語、算数、理科の主要4科目。 - 学校が二部制のため、午後シフト校は始業前の10:30～12:00、午前シフト校は終業後の11:00～12:30に実施。児童は一日に2科目受講した。 - 週4日実施。授業準備や記録を行う事務日を1日設定した。 - 全児童400名分のケースファイルを作成。補習授業での経過や学校の定期テストの結果を記録。 - 保護者ミーティングを定期的に持ち、保護者の関心を高め、その協力を得た。 (イ) 人材育成と学校設備支援 - 参加型授業の指導法について、計31時間の教員研修を実施。第一回研修19時間、第二回研修12時間。教員20名が参加。 - 参加型授業やマネジメントに関して校長研修実施（1日、6時間）。5参加校の校長・副校長が参加。 - 各学校の希望に合わせ、理科実験器具、教材本、本棚、視聴覚器材等を供与した。 - 教員が学習教材を各科目10種類以上自分たちで作成し、校内で共有するだけでなく、他校や教育省、地元社会にも広く紹介（展示会やDVD製作）することで、新しい教育技術の伝播と普及をすることができた。

	(ウ) 課外活動 ・ 補習対象児童 400 名が課外活動や遠足に参加。 ・ 児童館ではスポーツ、ダンス、工作活動など様々なレクリエーション活動、遠足等を実施。 ・ 課外活動指導員が保護者ミーティングを毎月開き、児童をサポートする体制を強化した。
(3) 達成された成果	(ア) 補習授業 ・ 補習授業担当教員は、参加型学習の指導法を用いて補習授業を進め、児童の関心と意欲を大きく引き出すことができた。このことが補習授業の高い出席率と継続したインプットにつながり、学業成績も向上したといえる。 ・ 5 校の補習授業実施前（2016 年度 5 月）の 4 科目の平均得点率は 56.1%であったが、事業終了時（2017 年度 5 月）の平均得点率は 68.0%になり、4 科目平均の得点率が約 12 ポイント向上した。 (イ) 学習環境の改善と人材育成 ・ 研修に参加した教員が参加型学習などの指導法を習得。自ら新たな教材を作成したり、供与された資機材を活用しながら、児童の積極性を引き出す授業を行えるようになった。 ・ 経験豊富な児童館の教育指導員が、研修後に各校を訪問指導して教員たちのフォローアップを行い、教員研修の成果を確実に定着させることができた。 ・ 各教科の教員どうしでミーティングを行い、教材作成も協働することで、学校の垣根を越えたネットワークができ、研修後も教員が情報交換や自己研鑽を積む場が構築された。 (ウ) 課外活動 ・ レクリエーション活動や遠足への参加は、児童のストレス解消につながり、心理的な安定や学習意欲や集中力を引き出すことができた。
(4) 持続発展性	・ 児童の学習への関心意欲が高まり、学習への積極的な取り組みの継続が期待される。 ・ 補習の成果を見た保護者が学習支援の必要性を理解したことで、家庭でのサポートが強化され、学習環境が改善された。 ・ 研修に参加した教員のネットワークが築かれ、学校を超えて情報交換する仕組みができた。 ・ 校長研修により、校長を中心に学校全体で事業に取り組む仕組みができた。また研修内容が学校内の他教員にも広く伝播された。 ・ 提供資機材の活用や管理が校長の監督下学校全体で共有されており、事業終了後も学校で継続して使用される土台になった。 ・ 現地提携団体、教育省、学校との連携や情報共有の仕組みが強化され、今後の普及につながっている。